令和６年度　認定こども園あおがき　幼稚園評価

１　目標

本年度の重点目標	・基本的な生活習慣の定着を図り、集団における望ましい態度や能力を育てる。 ・主体的に物事に取り組もうとする意欲や態度を育む。 ・互いの思いや考えを共有し、最後までやり遂げる力を培う。 ・身近な人や自然とふれあう直接体験を通して、情操豊かな心を育む。

２　自己評価（達成状況　Ａ：優れている　Ｂ：おおむね良好　Ｃ：やや改善　Ｄ：要改善）

領域	観点	評価目標	達成状況	園の取組状況と改善の方策
園運営	開かれた園づくり	多様な人々とのふれ合いやかかわり	A	地域に出向いての交流だけではなく、ゲストティーチャーや応援隊として来園してもらい、焼芋大会や絵本の読み聞かせ、放課後の見守りなどお世話になり、子ども達とふれあう機会を多く持つことができた。また、園内の活動にとどまらず、近くの高齢者施設のハロウィンパーティーへの参加や運動会あそびや和太鼓遊びの様子を見てもらう機会も設けた。今後も、小中高や地域の方との交流、地域の施設を利用するなど計画し、いろいろな体験ができるよう努める。また、地域の方にも足を運んでいただき園のことを知ってもらう機会になるようにする。
	子育て支援の推進	「親と子の育ちの場」につながる情報発信・相談活動	A	子どもの育ちや学びが伝わるように週１回のドキュメンテーション（写真・コメント）の配信を行った結果、肯定的な評価が 96%だった。次年度は、さらに伝わりやすいように、動画配信も検討する。また、日々の子ども達の活動内容がわかるような写真を掲示し、送迎時に見てもらえるようにすることで、親子の会話にもつながっている。育児相談の利用は少ないが、送迎時やおたより帳でやりとりを行い、相談しやすい体制を作ることができている。『給食体験会（5 歳児保護者)』『もぐもぐ相談会（0 歳児保護者)』の中で、噛むことの大切さや月齢に応じた離乳食を伝え、相談なども気軽にできるようにした。子育て支援では、在宅児親子でクラスに入り、園の生活リズムや遊びの様子を一緒に体験することで、園生活の様子を知ってもらう機会になった。子育て学習センターと合同で保護者に向けた講演会を計画していくようにする。
教育課程	遊びを通した幼児期にふさわしい生活の総合的な展開	主体的に遊びを工夫する	B	今年度、公開保育があった。なかよしタイムを通して異年齢児とかかわりながら、子ども達が遊びを選択してイメージしたことを実現できるような環境を整えていった。今後も、年間を通じて、環境を通した遊びの展開ができるようにしていく。また、わんぱーくや地域の施設など、自然の中で思い切り体を動かすことができた。アンケートでも、肯定的な数値が高い。講師に自然の中での遊び方を教えていただく職員研修を２回行ったが自然を活用した遊びを深堀できていないので、一緒に遊びながら、子ども達がイメージした遊びを実現し、職員も子どもも主体的に遊びこめるような環境作りに努めていく。
	基本的生活習慣の育成	家庭と共に進める 生活習慣の育成 （挨拶・手洗い・うがい）	B	挨拶については、保育者が率先して園児や保護者に気持ちの良い挨拶をし、繰り返しの中で習慣づくように取り組んだ。その中で、進んで挨拶をしたり友だち同士で「おはよう」「あいさつしよか」と声をかけあったりする姿も見られる。看護師による手洗い指導を行ったことで目に見える形で手洗いの大切さを知る機会となった。うがいや咳エチケットについても絵本・教材を利用し繰り返し取り組むことで、丁寧にしようとする姿も見られる。園での取り組みの様子をイロドリンクで配信し啓発に努めているが、アンケートでは肯定的な数値が低いため、今後も続けながら家庭と同じ姿勢で取り組めるようにする。
	園小連携	小学校との連携・交流	B	5 年生と 5 歳児、1 年生と 5 歳児の交流を各 2 回ずつ行っている。小学校の運動会や音楽会などを見学することで、小学校での取り組みを身近に感じることができた。7 月には、園小職員が集まり、5 歳児の参観後、パワーポイントで遊びから学びの様子などを見て知っていただくことができた。また、青垣小と合同で「架け橋期カリキュラム」を作成し、アプローチプログラムについてわかりやすく記すことができた。アンケートでも、肯定的な数値が高い。今後は、担任同士が交流の打ち合わせや振り返りを行うなど、より密に連携を図り、職員同士の交流と相互理解を深めていく。
課題教育	特別支援教育	インクルーシブ教育の実践	B	活動や制作の手順・取り組み方をイラストや絵本、目印、色分けなどで示したり掲示したりするなど、子どもも大人もわかりやすいように伝えている。また、個人に合わせた課題を担任間で共通理解して取り組み、必要な援助を行っている。アンケートでも、肯定的な数値が高い。今後も、子どもの思いやできているところに目を向け、自信に繋げていく。そして、友だち同士、互いに支え合うことで、人との関係がより豊かになることを普段の生活の中で学んでいけるようにするとともに、安心して生活できるクラス運営に取り組んでいく。

	道徳性の芽生えの育成及び人権教育	「ありがとう」の気持ちを伝え合う	B	家族・応援隊・活動でお世話になった方々へ色々な場面で年齢に応じて「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えた。また、友だちのいいなと思うところを見つけて伝え合うことで嬉しい気持ちを持つ経験を重ねた。友だち同士でも遊びや関わりの中で気持ちを伝えたり折り合いをつけたりし、相手の気持ちに気づけるようにした。今後も、保育者のかかわりのもと、思いを伝えあう経験を重ねていくようにする。
	安全教育	遊びや生活の中で体験を通した安全教育の実施	C	避難訓練では、起こりうる事案を想定し事前に避難場所を知らせず職員・子どもともに放送の指示をよく聞き取り行動できるようにした。事後には、教材を利用したり話し合いをしたりしながら避難方法や身を守る方法を確認した。また生活安全では、園外活動で横断歩道の渡り方や交通ルールを確認したり、遊びの中でもルールを守らないと小さな怪我から大きな怪我につながることも知らせたりするようにした。職員間でのヒヤリハットの共有も実施している。来年度も、ヒヤリハットに対する取り組み方を工夫し職員の危機意識の向上に努める。バス事故を想定した訓練を実施しているが、近隣で起こったバス事故を踏まえて、自園ではどのように対応するかの体制作りを次年度の最優先事項として取り組んでいく。
	食育	食べ物への関心を広げ「感謝の心」を育む	A	今年度は、「感謝」する気持ちを育むことを目的とした。その中で、子どもたちがいつでも作れるように園で弁当箱を購入。おにぎり作りからスタートし、年齢に応じて給食をお弁当箱に試行錯誤しながら詰め、天気のいい日は園庭やわんぱーくまで行き青空の下で食べた。５歳児は、食べた後の弁当箱を洗う活動も行い、大好きなお弁当を作ってくれている人への感謝の気持ちが育った。さらに、苦手な食材を克服できる子が増え、食べることの準備に関わることで「早く食べたい」と食べる意欲にもつながった。また、３０年前の阪神淡路大震災にちなみ、１月１７日に釜土でご飯を炊きおむすびにして食べ、命の大切さや食のありがたさを伝えた。地域の方の支えが子どもたちの食の財産になる。次年度も、地域の方と食を通しての交流を大切にし、楽しい食事体験から、感謝の心を育み健康な体作りに取り組むように努める。

３　幼稚園関係者評価

・わざわざＨＰを見なくても、地域版園だよりで様子を知ることができる。大変な作業ではあるが、毎月の子ども達の様子がよくわかり、ほのぼのとした気持ちにさせてもらっている。今後は、園と何もかかわりのない人が興味を持たれるような発信方法の工夫が必要だと思う。
・毎月の園だより、保健だより、献立表などを拝見させていただくことで、丁寧できめ細かい計画の中でのこども園での保育の在り方を十分に感じた。また、保護者アンケート、行事に対してのアンケートは大変な作業だと感じたが、アンケートによってこども園の評価も見えてくると思う。未回答があってもおかしくないが、少し寂しく感じた。
・安全教育は、良いことも悪いことも情報共有することで、より良い方向へ向かうパフォーマンスにつながると思う。是非、全員での共有を今後も続けてほしい。
・市内で起こったバス事故は、保護者としてもぞっとした。実際に起こってみないと分からないこともあるが、想定している 10 倍のことを考えておかないと有事の際に対応することは難しいと思う。有事の際の市の対応はもちろん、市内の園同士の横のつながりをしっかりと持ち、情報共有ができる体制作りが必要だと思う。
・「食育」は『丹波の野菜はおいしい』ことを子どもの心にインプットすれば、将来においてもよいと思うので、新鮮なおいしい野菜や米をたくさん使って食べさせてほしい。
・アンケートの集計方法で、一つだけを独立させて見るのではなく、他の項目とも関連付けて見比べ分析するクロス集計にすると、もっといろいろなことが見えてくると思う。

４　幼稚園評価を受けての次年度の改善の方向性について

・応援隊や地域住民の方々との異世代交流を大切にし、かかわりを深める。
・遊びの中の「やってみたい」が実現できる環境を整え、自然体験や遊び込む経験から、自ら考える力を育み、自己肯定感を高める。
・架け橋期カリキュラムに沿った実践を行い、園小職員同士の相互理解を深め、園小連携の充実を図る。
・一人一人を大切にし、安心して自己発揮できるインクルーシブな教育・保育の実践をする。
・マニュアルの見直しを行い、職員一人一人が危機意識をもち、迅速に対応できる体制作りに努める。
・外部研修・園内研修（幼児理解・環境構成など）に積極的に取り組み、実践に繋げ保育・教育の質の向上を図る。

令和７年３月１１日

園　名　　社会福祉法人青垣福祉会
認定こども園あおがき

園長名　　安田　千代